

第7回定例会(地域主権分科会主催講演会)

北海道の小町村の維持・発展のために (附・中小都市再生の考え方)

1. はじめに

私たち地域主権分科会は、これまで北海道における社会資本整備のあり方、水ビジネスの可能性、集約型都市構造型等について勉強を重ねてきました。

今回の定例会は、消滅しつつある道内小町村の市街地を再生するには何が必要かを勉強するという趣旨で、10月28日(金)に、北海道開発局入札契約監察官の目黒聖直様に講師をお願いして「北海道の小町村の維持・発展のために」と題して講演会を開催いたしました。

講師の目黒聖直様は、北海道開発局に勤務する傍ら「北海道の小町村の維持・発展のために～市街地の再生と街中SC～」を出版されています。目黒様は、小町村の維持・発展のための方策として、最初に市街地の中心にショッピングセンター(SC)を建設し、それを起爆剤として市街地の再編・再生を進めることを提唱しています。

今回の活動レポートは、講演会の内容と講師の著書の一部を紹介させていただきます。



写真-1 講師の目黒聖直氏

2. 今日の地域再生の考え方

今日の地域再生の主流は、「地元で眠っている資源を発掘し、付加価値と地域ブランド力を付して、

市場での利益を上げよ」というものです。成功例として、高齢者がITを使いこなし売上を伸ばしている徳島県上勝町の「葉っぱビジネス」や、温泉、自然、ランドスケープといった地域資源を活用したまちづくりで成果を積み上げて、地域ブランド力を向上させた大分県の湯布院温泉や熊本県の黒川温泉などが挙げられます。

しかし、この考え方を普遍化してしまうと、市町村間に競争が生じ勝者と敗者が生まれます。両者が共倒れになることもあります。市場競争で発展を遂げる大都市と異なり、地域の再生のためには、地域の人々が自分たちの生活を良くするために何が必要かを考え、コミュニティが機能を発揮し補うことが重要であるというのが講師の考え方です。

3. 北海道の市街地再生には何が必要か

(1) 小町村市街地の現状

道内の小町村市街地は、人口減少に伴う過疎化により、数少ない営業中の商店と、シャッターを降ろしたままの廃業店舗が、一般家屋や、廃屋、その廃屋さえ朽ちてしまった建物跡の空き地といったものと混然として並んでいる状況です。営業中の店舗が分散すると、その移動は車となりますが、車を使うくらいなら最初から郊外のショッピングセンターに向かう人が多くなります。そのため、市街地は、ますます人通りが少なくなり、商店もない市街地も出現している危機的状況にあるのが現状です。

(2) 街中SC(ショッピングセンター)構想

このような状況を変えるためには、街中に残っている商店や飲食店を街の1箇所に集めた街中ショッピングセンター(以下、「街中SC」と表記)を既存の公共的施設に隣接して建設し、それを起爆剤

として、その一帯を市街地の中心地区に再形成しようというのが講師の提案です。店舗や飲食店等の商業機能に加えて、図書館、病院、町役場、バスターミナル、習い事教室等と併設することで、用事がワンストップで済ませられ利便性が向上し、人通りが増えて賑わいが生まれます。

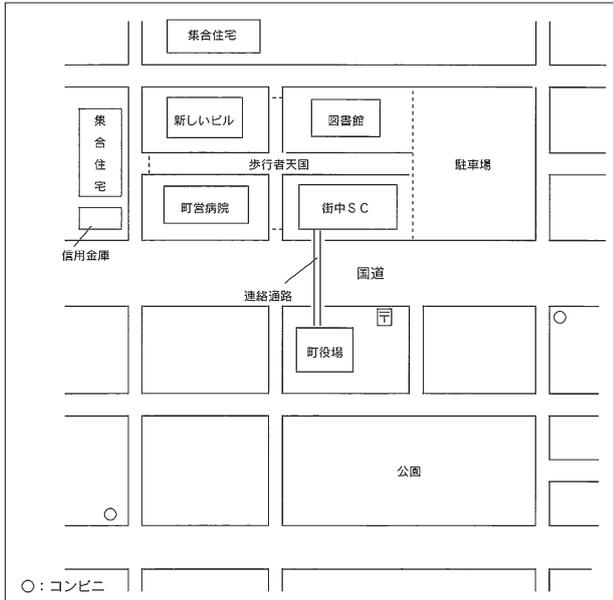


図-1 望まれる街の姿の模式図

(3) 街中SCの具体的なイメージ

新たに建設する街中SCには、地元の店を入居させることが大切です。有名ショップが立ち並ぶ店舗構成では、全国どこも同じ風景となり地域色を出すことができません。今でも市街地に残っている商店は、地域の人々に愛され必要とされています。街中SCは、地元の店で構成されるところに意味があり、それが魅力となります。(例：シーモール下関)

また、北海道は寒さ対策が必要です。街中の商店を納めるひとつの大きな空間の形成や、街中SCと他施設を連絡通路で連結することが望ましいです。

(4) 街中SCの構造

街中SCは、地域を再生・活性化するものであることが期待され、街のシンボルとなることが求められます。このため、人を集めるための設備が必要となります。

講演会では、駐車場について説明されていました。札幌駅近郊のある中都市の駅前周辺には、スーパーと図書館が線路を挟み建てられ、各施設に専用駐車

場があります。隣の施設に行くには、その駐車場に車で移動しなければならず、人の流れが途絶え賑わいが生じません。また、駐車場が複数あると、駐車状況に片寄りが生じることも考えられます。このため、駐車場は、一箇所にまとめて整備し、近接する施設と共用のものにするのが望ましいです。

4. 意見交換

講演の後、参加者で活発な意見交換を行いました。参加者の出身地や自宅周辺、勤務先での市街地の状況についての発言が主なものでした。

意見1: 施設に人を集めるには、停めにくい立体駐車場ではなく、駐車が容易な平面駐車場の整備がポイントとなる。

意見2: インターネットを利用した通販で人を集めるなど、時代の変化に合わせてまちづくりを行うことも一つの方法と考える。

意見3: 商店は魅力がないと行かないので、店の造り方や配置、イベント空間など、魅力的な店舗づくりのための仕掛け人が必要ではないか。

意見4: 道路沿いに商店が立ち並ぶある商店街は、歩道が狭く歩いて楽しむ空間としての魅力が足りない。歩道スペースを広げ、イベント開催時は車道を規制するなどの仕掛けをしないと、町は発展しないのではないか。(例：本郷通商店街)

などの意見が出されました。



写真-2 活発な意見交換の様子

5. 終わりに

今回、「北海道の小町村の維持・発展のために」と題して報告させていただきました。

私たち地域主権分科会では、今後も、北海道活性化・地域活性化に関する情報の提供を、幅広い観点から実施していきたいと考えています。